

きりしまDX未来図

令和4年3月
情報政策課



目次 (第1部 基本方針)

はじめに

・DXとは

1 きりしまDX未来図の概要

- ・策定のねらい
- ・構成

2 DXに取り組む目的

- ・なぜ今、霧島市がDXに取り組む必要があるのか
- ・「市民等の利便性の向上」と「職員の業務の効率化」の両輪

3 DXを推進するための基本的項目

- ・心がけること
- ・目指すべきデジタル社会
- ・想定される検討テーマ

4 「第2部 きりしまDX将来像」策定のスケジュール

- ・きりしまDX将来像の描き方
- ・スケジュール

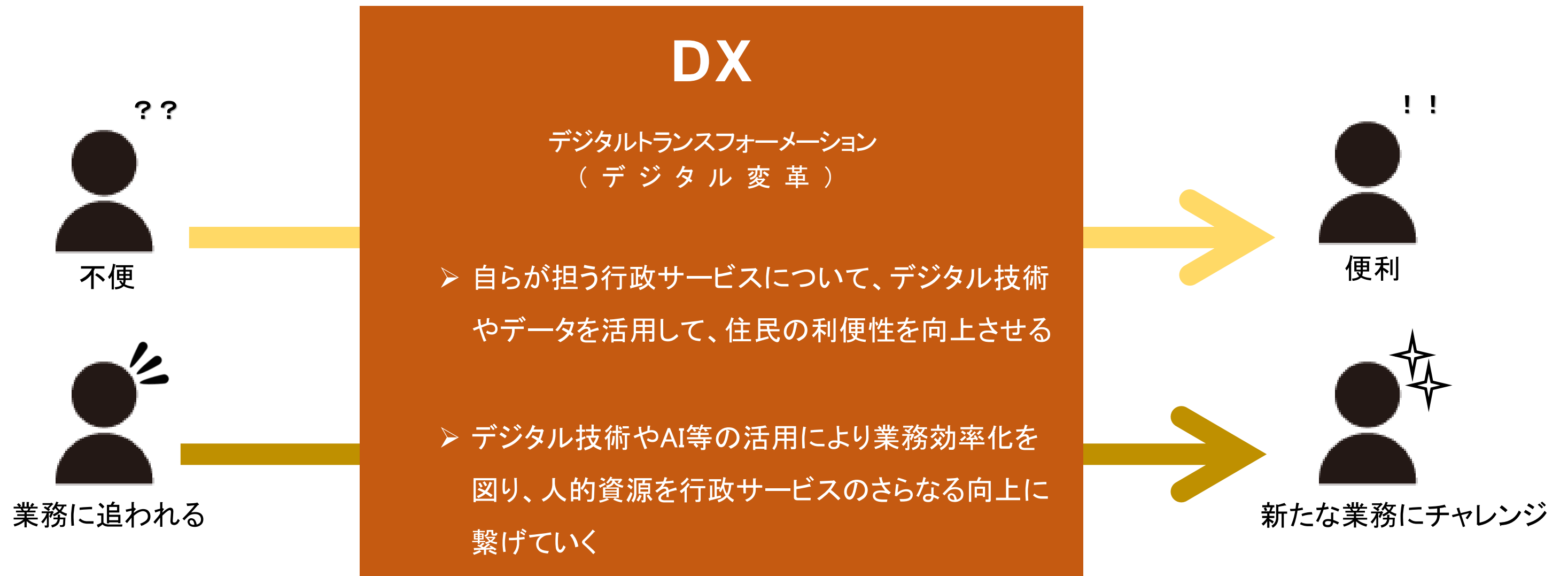
第1部 基本方針



はじめに

ディエックス DXとは

- 「新たな日常」の原動力として、制度や組織の在り方等をデジタル化に合わせて変革していく、言わば社会全体のデジタル・トランスフォーメーション(DX)が求められている。※自治体DX推進計画抜粋
- デジタル化は目的ではなく手段に過ぎない。デジタル化によって、多様な国民がニーズに合ったサービスを選択でき、国民一人ひとりの幸福に資する「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」を進めることとする。※デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針抜粋

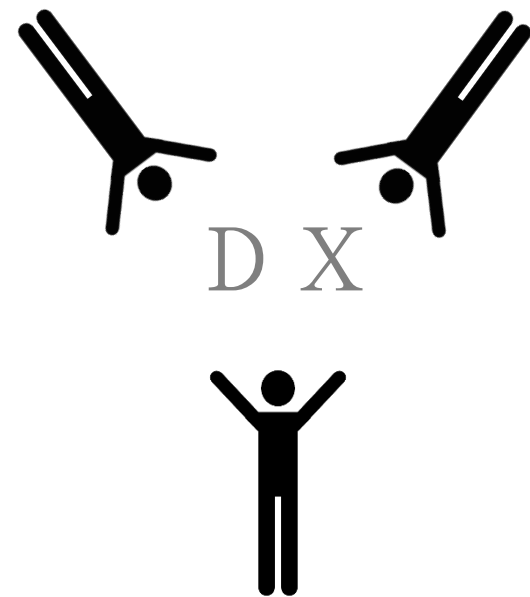
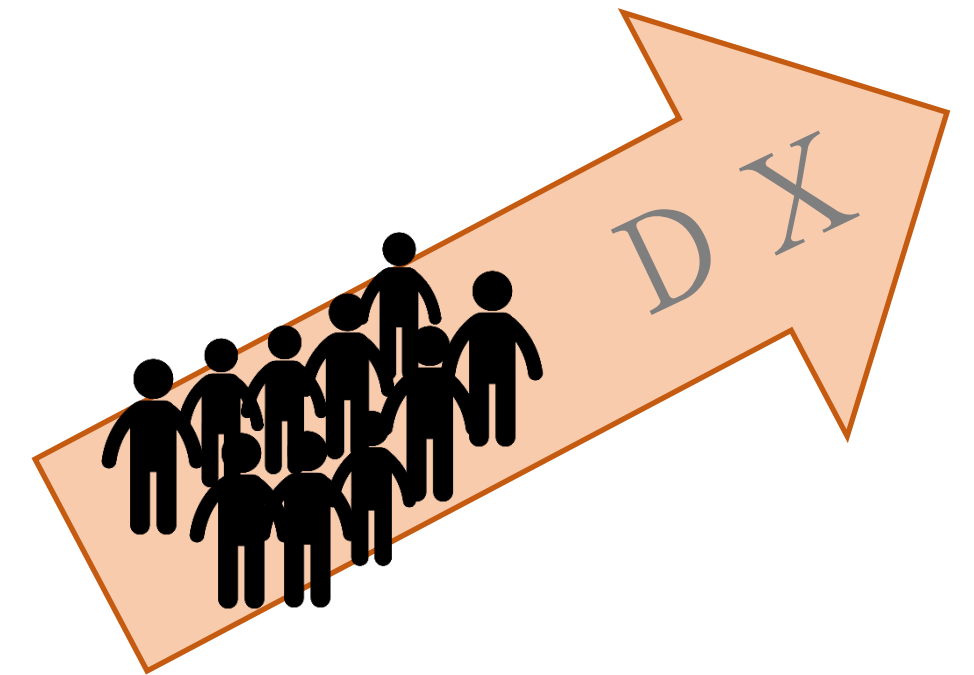




1.きりしまDX未来図の概要

策定のねらい

- 1 デジタル・トランスフォーメーション(DX)の考え方を示し、職員全員が同じ方向を向いて、DXを推進していく



- 2 DXの認識を共有し、職員のDXの機運を醸成する

1.きりしまDX未来図の概要

構成

きりしまDX未来図

第1部 基本方針

組織をあげてDXを推進するために、
必要な指針を明らかにし、職員全員が目的を
共通するための共通ビジョン

▲
きりしまDX未来図は基本方針ときりしまDX将来像で構成し、
「霧島総合計画」を上位計画とし、DX推進計画に
位置づける

第2部 きりしまDX将来像（R5～）

「DXによる市民サービスの向上」と「より効率的な行政運営に取り組む」ための向こう3年間の具体的な将来像を描く

（ローリング方式により毎年見直しを行う）

2.DXに取り組む目的

なぜ今、霧島市がDXに取り組む必要があるのか

市役所の外で起こっていること

- デジタル技術の進展
- デジタル庁の発足
- 国のデジタル化に係る施策の推進
- 非接触・非対面のサービスへの推進(行政手続きのオンライン化)
- 規制緩和

デジタル化の推進

市役所の中で起こっていること

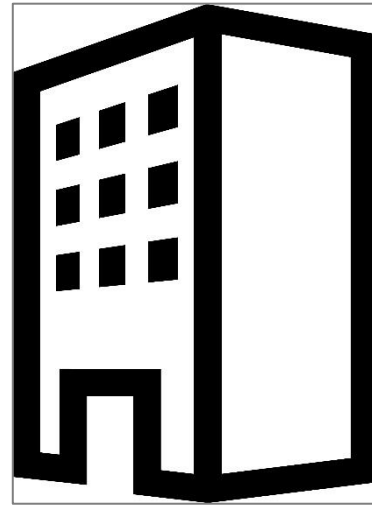
- 光ブロードバンド網の整備完了
- RPA・AI-OCRの導入
- ネットワーク機器や市民課レジの機器更改
- 外部デジタル人材の登用

デジタル化の環境整備

社会のデジタル化の波をしっかりと捉え、
DXによる課題解決や新たな取組にチャレンジする絶好のチャンス

2.DXに取り組む目的

「市民等の利便性の向上」と「職員の業務の効率化」の両輪



市民等にとって便利な市役所

新型コロナウイルス感染の拡大を受け、新しい生活様式が求められている中、デジタル技術の進展が著しい。

市民等が求めているものを把握しながら、新しいデジタル技術を活用して、市民や民間事業者の利便性の向上を図る。

職員が効率的に働ける市役所

これまで行ってきた業務を、まずは、デジタル化を原則として、根本から作業手順等を見直すことで、業務の変革を起こし、事務の効率化を図る。

事務の効率化により得た、行政資源である、ヒト、ジカン、カネを投資し、行政サービスの拡充を図る。

心がけること

1 利用者の視点に立つ

利用者が困っていることや求めていることを、しっかりと把握し、デジタル技術を活用して、行政サービスの向上を図る。

システムの構築においては、利用者が安心して使用することができるよう信頼性の確保に努める。

2 現状を分析する

わからないことは、積極的に現場に足を運び、現場から情報を収集したり、詳しい人にヒアリングを行うなどして、現状を把握する。

また、自分たちの業務に係る作業手順等について、手順書等を作成することが必要である。

しっかりと現状を把握し、現状の分析を行うことで、根本的な原因を把握する。

3 できることからチャレンジする

すべてを一度に実施しようとするのではなく、小さくスタートし、少しずつ大きくしていきながら、目標とする将来像に近づけていく。

成功や失敗などを繰り返し、軌道修正しながら一貫性をもってチャレンジする。

3.DXを推進するための基本的事項

心がけること

4 あきらめないでやり抜く

根本から作業手順等を見直し変革を起こすことは、多くの部署や関係機関、利害関係者等との調整や課題解決など、とても大変な作業であり、労力が必要である。

一遍に行うのではなく一貫して行いながら、少しずつでも前に進めて、最後までやり抜く。

5 多様性を認め合う

デジタル化の推進と一緒に考えないといけないことは、情報格差(デジタルデバイド)の対策の検討である。

デジタルにあまり精通していない利用者や様々な社会的に不利な条件をもっている利用者など、デジタル技術を有効に活用できないことを多様性と認める。

そのうえで、デジタル化に困難を感じている利用者が必ずいることを常に意識して、どうしたら良いのか継続的に考える。



3.DXを推進するための基本的事項

目指すべきデジタル社会

市民一人ひとりが安心して自分に合ったサービスを選択できるデジタル社会

スリムな自治体経営を実現できるデジタル社会

地域産業が持続的かつ健全な経済活動を実現できるデジタル社会

多様な働き方を選択できるデジタル社会

※既存の価値観や枠組みを根本から覆す革新的なイメージが感じられるよう、裏からの視点でDXロゴを作成。

3.DXを推進するための基本的事項

想定される検討テーマ

市民1人ひとりが安心して自分に合ったサービスを選択できるデジタル社会

- 行政手続きのオンライン化
- 書かない・行かない・待たない窓口
- デジタルデバイドの解消
- セキュリティ対策の徹底

地域産業が持続的かつ健全な経済活動を実現できるデジタル社会

- 地域産業におけるデジタル化の支援
- デジタル技術を活用した地域経済の活性化

スリムな自治体経営を実現できるデジタル社会

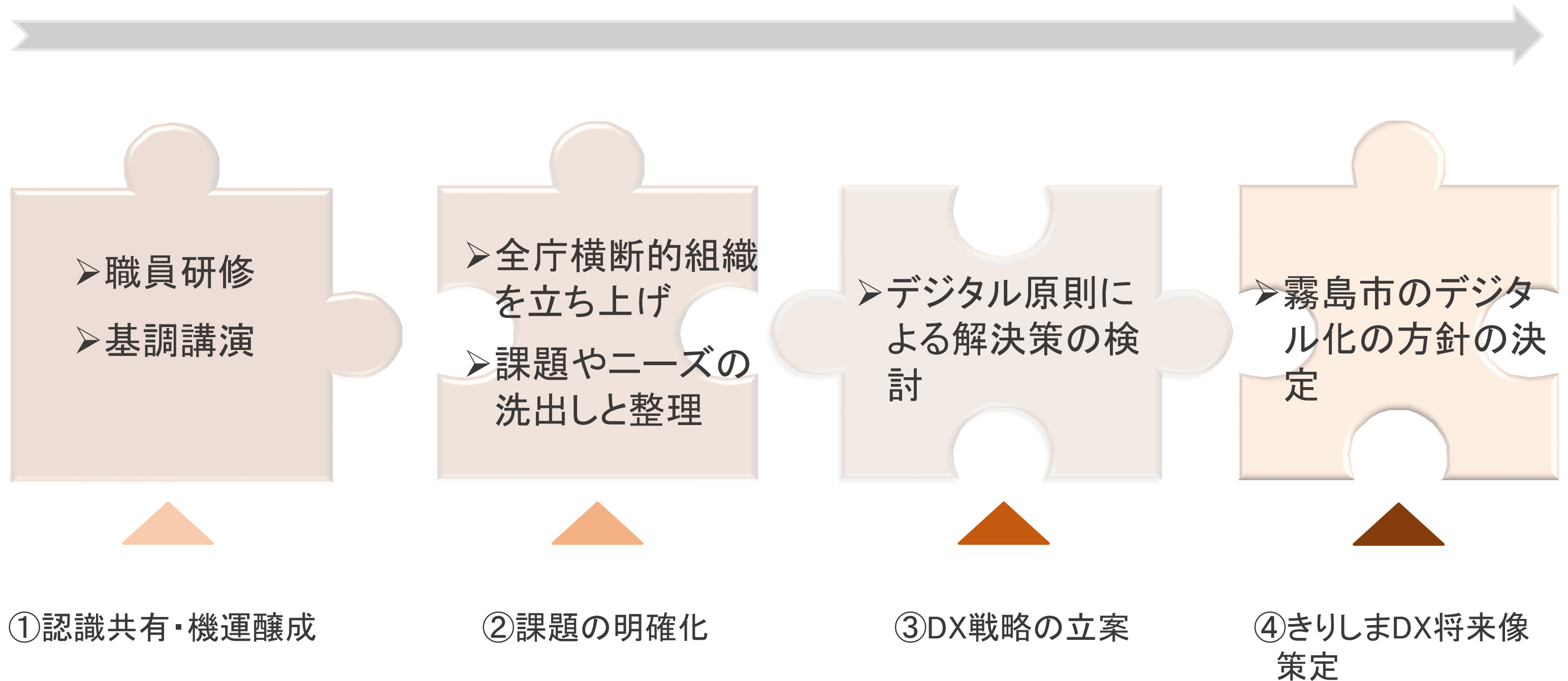
- デジタル技術を活用した業務の見直し
- 場所に限定されない働き方の推進
- デジタル人材の育成や組織の見直し

多様な働き方を選択できるデジタル社会

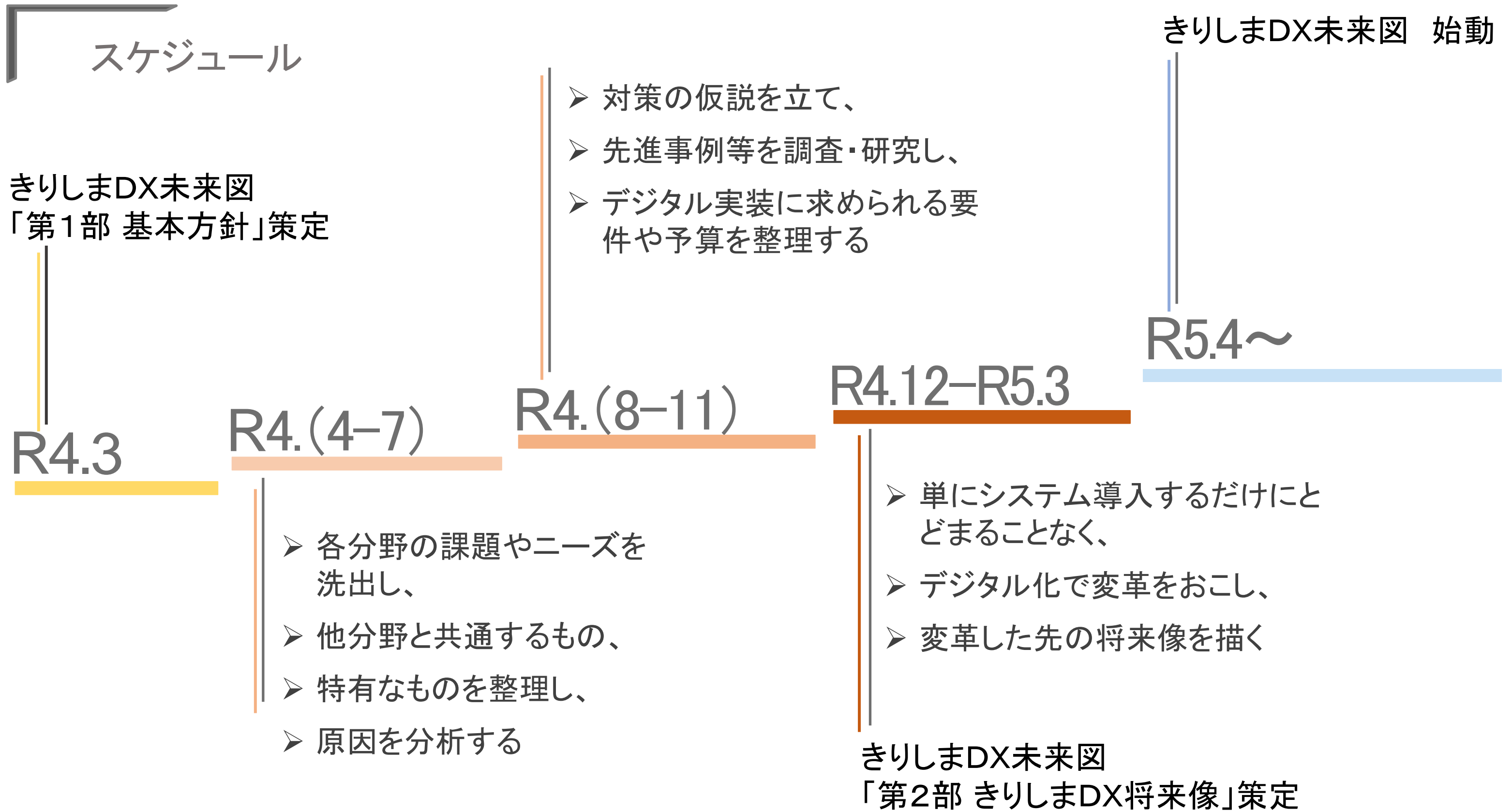
- サテライトオフィス・ワーケーションの誘致
- 地方に新たなひとの流れを創出する「転職なき移住」の推進

4.「第2部 きりしまDX将来像」策定のスケジュール

きりしまDX将来像の描き方



D 4.「第2部 きりしまDX将来像」策定のスケジュール



きりしまDX未来図 (第1部 基本方針)